

新井事務長

杉森政雄（事務）

新井事務長は大正5年のお生れで本年10月に満63才を迎えられ、この12月末をもって定年退職されることになりました。

事務長は、昭和12年10月に実験補助嘱託として東大工学部に入られました。翌年兵役のためやめられました。その後昭和16年5月に東大庶務課に入られた後、工学部、第二工学部、生産技術研究所、営繕課（施設部）を経て昭和40年4月千葉大学に施設部企画課長として転出されましたが、昭和43年1月に原子核研究所事務長（宇宙線観測所事務長を兼任）として東大に戻られ、天文台を経て昭和52年7月に理学部にこられました。以来今日まで2年半の間、非常に精力的に仕事をされて理学部の為に盡してこられました。

新井事務長について考えるとき、まず感じるのは優れた指導力を持っておられたということです。それは仕事に通暁しておられ、又ご自分の考え・判断に自信を持っておられたこと、それに決断力

と説得力を具えておられたことによるものと思われるが、常に逡巡することなく、直截的で明快な指示をされ、それに難色を示す者には理のある説得をされてその意に従わせるといふ風に強い指導力を示してこられました。

新井事務長はまた人情家肌の温かな方で、誰でも気楽に話し合え、何でも気軽に相談できるふん囲気を持っており、事務室の皆に親しまれておりました。“誰もが気楽に入出りできる事務長室にしたい”とよく言っておられました。実際、事務室や教室の沢山の人が気軽に事務長室に入出りし、それを喜んで迎えておりました。忘年会その他の事務室の飲食の会合で、常に、中心に事務長がおり、それを囲んで話が弾んで行くという状況であったのは、事務長の話題の豊富さと話し上手によるところもありましたが、何よりも事務長が皆に慕われている一つのあらわれであると思います。事務長は時には厳しい態度を示されることもありましたが、その厳しさの中に温情が感じられ、怒

られている、というより教え訓されている、という気持でした。

新井事務長はまた趣味の広い方で、俳句は大分昔からやっておられ、俳号も持っておられるということですし、また飲む会ではいつも端唄、小唄などを渋いので披露されましたが、大分年期が入っているようでした。植物についても詳しく、

その名前をよく知っておられるのに驚かされたことも度々でした。そのほか、時々のお話の中に、多方面に造詣の深いことがうかがわれました。

新井事務長は本当に良い事務長でした。まだまだお元気で、お若く、今やめられますのは本当に惜しく残念です。今後益々のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げる次第です。